



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

本年も感染症の流行状況を毎月お知らせして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

～インフルエンザについて～

昨年の夏からずっと続いているインフルエンザですが、1月10日東京都の発表によると、依然として注意報レベルが続いています。現在流行している株は、主流がA型のAH3亜型で、次いでAH1pdm09、B型が少数混在しています。集団事例報告数と入院患者報告数は、11月上旬に一度やや減少したものの、11月下旬から再び増加しています。流行初期の東京都の予測では13週間ほど続くということでしたが、それ以上にダラダラと続いています。新学期が始まり、また広がりつつあります。

～溶連菌・咽頭アデノウイルス（プール熱）について～

昨年秋から冬にかけて溶連菌とアデノウイルスが猛威をふるいました。東京都感染症情報センターの流行状況を見ますと、冬休みに入ったためか年末には急激に報告数が減少しました。年が明けて新学期が始まりましたので、これからまた増えてくるかもしれません。

～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

厚労省の発表によると1月7日の時点で新型コロナウイルスは7週連続増加傾向、まだまだ寒くなるこの時期に注意を呼びかけています。東京都で現在流行している株（主流がEG.5, JN.1, BA.2.86）は特に重症者が急増しているという報告は出ていません。世界で最も多く検出数が増加しているのがJN.1ですが、この変異は高い免疫回避能力を確保していると報告されています。つまり、ウイルス自身が約2週間に1回どんどん変異する事により、人間が以前に獲得した免疫を回避する能力を身につけているという事です。

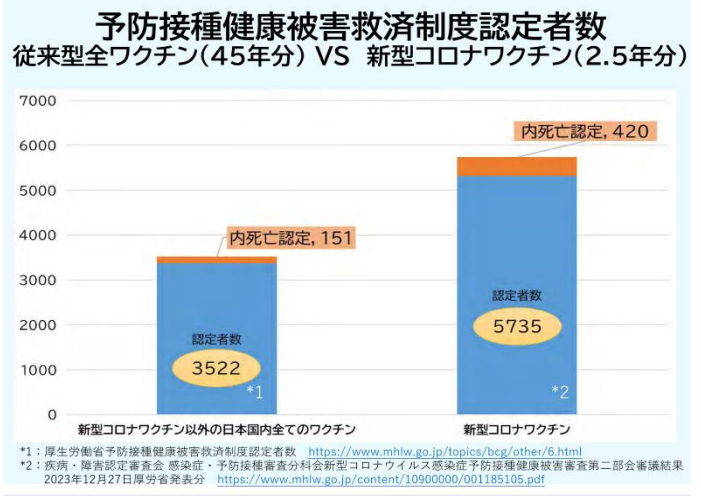
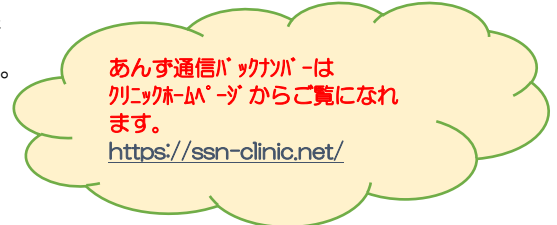
令和3年に始まった新型コロナワクチンですが、令和6年1月7日時点で東京都全人口に占める接種状況は、1回目80.1%、2回目79.1%、3回目65.9%、4回目42.4%、5回目25.8%、6回目16.3%、7回目接種10.7%です。首相官邸より1月9日に発表された情報では、日本全国年代別で5～11歳では3回接種約10%、生後6ヶ月～4歳では3回接種約3%となっています。

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省の新型コロナワクチン副反応疑い報告によると、昨年10月までの発表で、死亡者2122人、重篤者8750人、副反応疑い総数36556件と報告されています。令和6年1月11日に一般社団法人ワクチン問題研究会（代表理事：京都大学名誉教授、福島雅典氏）が厚労省で開催した記者会見では、新型コロナワクチン接種による健康被害について「驚愕する事実」を報告しました。これまで、世界で数千に上る論文が「ワクチン接種後の副作用」として報告されていると。記者会見に先立ち、武見敬三厚生労働大臣に「新型コロナワクチン接種による健康被害者の速やかな救済に関する要望書」を提出した事を報告しました。

表：12月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌感染症	291
2	インフルエンザA型	278
3	胃腸炎(105例ノ1含む)	148
4	咽頭アデノウイルス(プール熱)	66
5	インフルエンザB型	35
6	新型コロナウイルス	8
7	ヘルパンギーナ・手足口病	8
8	突発性発疹	3
8	おたふくかぜ	3
9	水ぼうそう	2



新型コロナワクチン接種後の死亡認定件数





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～インフルエンザについて～

昨年の夏からずっと流行が続いているインフルエンザですが、東京都感染症情報センター発表によると1月上旬は一時やや減少したものの、1月下旬から再び増加に転じています。2月に入って福生市内ではB型が増加して来ており、学級閉鎖も出ています。東京都の情報では現在流行している株は、主流がA型のAH3亜型が約60%で、次いでAH1pdm09が約37%、B型は3%となっています。B型は重症化することはほとんどありません。とはいえ、5類の感染症に指定されており、発熱後5日間かつ解熱後2～3日(乳幼児は3日、学童以上は2日)の自宅療養が必要です。

～感染性胃腸炎について～

例年と同じく、冬の間は感染性胃腸炎が後を絶ちません。感染対策をきちんと行っているつもりでも、感染してしまうことがあります。吐き気や嘔吐、下痢、食欲不振などの症状は感染性胃腸炎の可能性が高いです。このような症状が認められた時はお家でお休みしましょう。吐き気がある時は無理に食べず、水分補給のみにしましょう。それでも吐いてしまう時は、ひとまずお腹をお休みさせるために1～2時間ほど絶飲食(飲まず食わず)してみましょう。吐き気止めのお薬があれば、それを使ってみるのもよいでしょう。吐き気が止まらない、飲ませても吐いてしまう、顔色が悪い、ぐったりしている、ボーっとしている、などの症状がみられた時は、脱水症状かもしれません。脱水症状は、体の中の水分が不足して循環する血液量が減り、血圧が低下することによって生じる症状です。点滴治療が必要な場合がありますので、医療機関を受診しましょう。

～新型コロナウイルスについて～

2月1日に発表された東京都保健医療局新型コロナウイルス感染症モニタリング分析によると、東京都で現在流行している株は約60%がJN.1、約30%がEG.5、約10%がBA.2.86となっています。先月同様、特に重症者が急増しているという報告は出ていません。世界で最も多く検出数が増加しているのがJN.1ですが、この変異は高い免疫回避能力を確保していると報告されています。

～新型コロナワクチン・副反応について～

厚労省の新型コロナワクチン副反応疑い報告によると、昨年10月までの発表で、死亡者2122人、重篤者8750人、副反応疑い総数36556件と報告されています。令和6年2月9日に発表された予防接種健康被害救済制度の累積受理件数は、10,169件、認定件数は6,244件でこれまでのすべての予防接種を合わせても届かない過去最高を更新しています。副反応は幅広い年齢に認められており、小児にも多数認められています。新型コロナワクチン後に認められている主な副反応の症状としては、心筋炎・心膜炎、失明や視力低下、関節痛、歩行困難、ひどい倦怠感、息切れ、月経不順・異常、頭痛、脱毛など、新型コロナウイルス罹患後症状と似たような症状です。詳しくは厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

表：1月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌感染症	178
2	胃腸炎(ノロウイルス含む)	123
3	インフルエンザA型	71
4	インフルエンザB型	28
5	新型コロナウイルス	26
6	咽頭腺ウイルス(プール熱)	21
7	突発性発疹	3
8	おたふくかぜ	2
8	伝染性膿痂疹(とびひ)	2
10	ヘルパンギーナ・手足口病	1
10	リンゴ病	1



～あんずからのお知らせ～

- ★**空き状況**はWebでしみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。**ご予約は必ずお電話**でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話**で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まります。五種混合というのは、現行の四種混合ワクチンにHibワクチンが加わったものです。これまで四種混合を接種している子は原則として四種混合で続けます。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～インフルエンザについて～

昨年夏から続いていたインフルエンザは、1月後半からB型が流行り出してから3月に入って減少傾向となっています。今回のインフルエンザは、大きなピークが無かった分、ダラダラと長期間の流行となりました。とはいえ、型はAH1pdm09、AH3、B型など次々に入れ替わりました。ひょっとすると、このシーズンに3回インフルエンザに罹った人もいたのではないのでしょうか？インフルエンザワクチンは感染予防効果はあまり高くなく、重症化予防と言われていています。ですので、自己の免疫力を高めることで感染予防することが大切です。睡眠をしっかりとり、適度に日光を浴び、規則的な生活やバランスの取れた食事を習慣にしましょう。

～溶連菌感染症について～

昨年後半から溶連菌感染症は、高い流行レベルを維持しておりなかなか終息しません。溶連菌感染症は、一度かかっても何度でも罹患する特徴があります。通常、抗生物質を7～10日間内服して除菌治療を行います。それでも繰り返し罹ってしまう場合があります。あまり何度も罹ってしまう場合には、ご家族内で「無症状保菌者」がいらないかどうか確認することもあります。せっかく治療しても、ご家族内のピンポン感染が疑われる場合は、無症状のご家族の検査を行い、陽性者がみつかったら一斉に除菌を行います。

～新型コロナウイルスについて～

3月上旬の全国の感染状況によると、3週間連続で減少となっています。今回の10波はピークもそれほど高くなく終息してきました。丸四年続いた新型コロナもそろそろ終息してくれることを願うばかりです。

～新型コロナワクチン・副反応について～

令和6年度春以降は、ワクチンの定期接種対象者は65歳以上の高齢者及び、60～64歳ではインフルエンザワクチン等における接種対象者のみが対象となります。

京都大学名誉教授の福島雅典先生は、一般社団法人ワクチン問題研究会や医学雑誌で厚労省のデータや世界中の論文をもとに副反応について驚愕の調査結果を発表しています。2021年12月から2023年11月までに発表された論文は、国内だけでも447演題です。世界の論文と比較しても、国内国外ともにあらゆる臓器に渡る副作用が報告されています。副反応の上位10疾患は、血小板減少、頭痛、心筋炎、血小板減少を伴う血栓症、深部静脈血栓症、ギランバレー症候群、静脈同血栓症、アナフィラキシー、リンパ節腫大、血管炎です。特に目立つのが血栓症とつく血管系障害です。厚労省のデータでも死因上位は血管系障害、心臓障害で半数近くを占めています。血管以外では、リウマチや皮膚筋炎などの自己免疫疾患が多発していると解説されています。

～最後に～

おかげさまで、あんず通信を100号まで続けることが出来ました。これからも皆さんの参考になる情報を発信できるよう頑張って参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

表：2月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザB型	220
2	溶連菌	186
3	胃腸炎(加37度ノ1含む)	128
4	咽頭アデノウイルス	28
5	新型コロナウイルス	19
6	インフルエンザA	16
7	突発性発疹	6
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	4
9	りんご病	2
10	水ぼうそう	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます。<https://www.ssn-clinic.net/index.html>

～あんずからのお知らせ～

- ★空き状況はWebでしみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★キャンセルをされる場合留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。
- ★ご予約の際の注意事項
診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様が同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まります。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種となります。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

4月新しい生活が始まりました。集団生活が初めてのお子様達は、今まで罹らなかった風邪や胃腸炎などにこれから次々と罹っていきます。一つ一つ免疫を獲得して、頑張っ乗り越えていきましょう！

～RSウイルスについて～

インフルエンザがようやく落ち着いてきたと思いきや、3月下旬からRSウイルスが流行りだしました。RSウイルスは毎年流行しますが、特に注意が必要なのは乳児です。症状は鼻水、咳、発熱で始まりますが、徐々に咳がひどくなっていきます。特に3～5病日は咳が酷くなり、哺乳量が減ったり、眠れなくなったり、咳き込んで吐いたりします。乳児では特に細気管支炎や肺炎でチアノーゼ（酸素欠乏状態）を起こすことがあり、入院が必要になることもあります。年長児では風邪症状ですが、咳や痰はしつこく、1ヶ月ほど続くこともあります。

～インフルエンザについて～

1月後半からはほとんどがB型となっています。インフルエンザB型はA型ほど重症化せず、脳炎を起こすことはまずありません。抗インフルエンザ薬であるオセルタミビル内服は、発熱期間を1日短縮する効果と、脳炎脳症抑制効果があることが知られています。一方、オセルタミビルなどの抗インフルエンザ薬の副作用には、異常行動などがあり、ほとんど重症化しないB型においては、必ずしも内服しなくても良いかもしれません。

～溶連菌感染症について～

溶連菌感染症は、相変わらず流行しています。溶連菌は飛沫感染しますが、菌が侵入しても無症状の事があります。ご家族で繰り返すときは、無症候性感染を疑って除菌治療を行うこともあります。稀に合併症の腎炎などを起こすことがありますので、治療後に検尿で確認しています。

～麻疹について～

2～3月に都内で数件の麻疹感染者が報告され注意喚起されています。経過を見ますと3月末から4月の第1週目以降新規報告はありません。麻疹ウイルスの潜伏期が約10日であることを考えると、2週連続で発生が無いということは一時収束したのかもしれません。

麻疹は空気感染で広がります。潜伏期10～12日を経て発熱を伴う風邪症状、目の充血で始まります。発熱は2～4日で一度下がりますが、その後熱が再上昇し皮膚に赤い発疹が出て来ます。発疹が出るまでは風邪と症状の区別が付きません。

～麻疹ワクチンについて～

日本では平成18年以降、MRワクチン1期2期定期接種を実施しており、大流行を起こすことはほとんどなくなりました。少し歴史を紹介すると、昭和53(1978)年に麻疹ワクチンが定期接種として導入され、それまでの百分の一から千分の一に減少しました。平成22(2010)年11月以降は日本国内での土着ウイルス発生は無くなり、海外からの持ち込みがわずかに発生するだけになっています。

麻疹発生のニュースを受けMRワクチン接種希望の問い合わせが増えていますが、MRワクチンが限定出荷となっている影響で、現在は定期接種1期の方が最優先となっております。

表：3月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌型	189
2	インフルエンザB	125
3	胃腸炎	85
4	咽頭アデノウイルス	11
5	新型コロナウイルス	7
5	インフルエンザA	7
7	RSウイルス	3
7	とびひ(伝染性膿痂疹)	3
9	突発性発疹	2
9	おたふくかぜ	2



～あんずからのお知らせ～

- ★**空き状況はWebで**
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。**ご予約は必ずお電話で**お願い致します。
- ★**キャンセルをされる場合**
留守番電話で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

5月(皐月)新しい生活に少しずつ慣れてきたころでしょうか。初めて集団生活に入った子供達は、初めての風邪や胃腸炎に罹っている子も多いと思います。これからまた色々な感染症をもらいますが、頑張っって乗り切っていきましょう！

～溶連菌感染症について～

昨年から溶連菌感染症が多い状態が続いています。溶連菌感染症はきわめてありふれた疾患であり、ほとんどの方は軽症です。しかし、一度罹っっても繰り返し罹っってしまう事があるのが難点です。色々調べてみますと、小児の5～10%が溶連菌を無症状で保菌しているというデータがあります。治療が不十分な場合には、中耳炎や副鼻腔炎、扁桃周囲膿瘍、丹毒など、より重症の感染症を起こすことがあります。7～10日間の抗生剤内服治療は大変かもしれませんが、除菌のために頑張っって飲み切りましょう。溶連菌感染症は出席停止となりますが、抗生剤をきちんと内服出来、24時間以上経過して、発熱が24時間以上無い場合には登園・登校できます。合併症を起こすことは稀ですが、発症から1～2週間後に腎炎やリウマチ熱を起こすことがあります。これは、溶連菌に対する免疫反応によって起こるものです。肉眼的にわかる血尿や、顔や体の浮腫み、関節痛、発熱などがみられた時には医療機関を受診しましょう。

～胃腸炎について～

胃腸炎は、嘔吐、下痢、食欲低下などの症状で始まります。原因ウイルスはたくさんありますが、ノロウイルス、アデノウイルス、ロタウイルスなどが有名です。感染力が強く、一人感染者が出るとあっという間に広がります。年長児であれば3～4日で改善する、よくあるお腹の風邪です。2歳以下の乳幼児では、腸が未熟なためにしばしば下痢が長びきます。乳児では腸粘膜が再生するまでに数週間かかることもあります。このため、一時的に乳糖不耐症になってしまうことがあります。このような場合には、下痢が改善するまでの間、乳糖除去ミルク(ノンラクト[®])や大豆乳(ボンラクト[®])などを使うことがあります。

～新型コロナウイルスについて～

新型コロナウイルスが感染症分類の五類になってから一年が過ぎました。小児では95%以上が軽症です。日本小児科学会では小児が発熱しても慌てないよう保護者に対し以下の情報を提供しています。

- ① 経口摂取(哺乳)出来、普通に眠れていれば、緊急で救急外来などを受診する必要は無く、翌日以降にかかりつけ医を受診して良い。
- ② 発熱に対しては水分摂取を促し、体温調節をこまめに行う。
- ③ 小児用の市販薬を含めた解熱剤を適宜使用して経過を診て良い※。
- ④ 経口摂取(哺乳)不良、尿量低下、末梢冷感(手足が冷たい)、顔色不良、呼吸状態の悪化、ぐったりしている、意識がはっきりしない、痙攣、異常行動、嘔吐を繰り返すなどの症状が一つでも当てはまれば、速やかに医療機関に連絡して相談する。
- ⑤ 判断に迷った場合は、「こども医療電話相談事業(#8000)」や日本小児科学会による「**こどもの救急** <http://kodomo-aq.jp>」などから情報を得ることも可能である。

※小児に対する市販薬使用について

一般に、感冒薬は6歳以下は使用しないよう推奨されています。ただし、小児用に市販されている解熱剤(アセトアミノフェン)などは用法容量を守って使う事ができます。

表：4月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	179
2	胃腸炎(ノロ2アデノ1ロタ1含む)	82
3	インフルエンザB型	25
4	新型コロナウイルス	14
4	RSウイルス	14
6	咽頭アデノウイルス	9
7	突発性発疹	6
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	5
9	水ぼうそう	2
10	りんご病	1
10	おたふく風邪	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます。<https://www.ssn-clinic.net/index.html>

～あんずからのお知らせ～

★**空き状況は Web で**
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。
ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセルをされる場合**
留守番電話で構いませんので**当日 8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

6月（水無月：みなづき）梅雨の時期となりました。日本列島に低気圧や前線が近づき、気圧の変化や寒暖の差で体調を崩しやすくなります。無理せずにやってみましょう。

～RSウイルス・ヒトメタニューモウイルスについて～

共に気管支炎や肺炎を起こすウイルスです。小児科では毎年流行があり、年長児では咳がひどい風邪で済みますが、乳児がかかると急性細気管支炎や肺炎を起こす心配があります。鼻水や咳、発熱の症状で始まり、咳が日に日にひどくなっていきます。特に悪化してくるのは発症から3日目位からです。咳の勢いで吐いてしまったり、苦しくて哺乳量が減ったり、顔色が蒼白くなったりする場合は医療機関を受診しましょう。鼻水がひどいときは、乳児ではまだ鼻をかむことが出来ませんので、授乳前や寝る前に鼻水を吸ってあげると良いでしょう。鼻水は、口で吸ってあげたり、電動鼻水吸引機で吸ってあげたりしましょう。時間帯では夜間から明け方が最も苦しくなりやすいです。喘鳴や痰からみの咳がひどいときは、頭のほうを高くしたり、抱っこしたりすると呼吸が楽になります。年長児でも、咳や痰が長期間続きます。睡眠時間をしっかりととり、体を冷やさないようにして免疫力を高めるようにしましょう。

～麻疹について～

東京都で2月と3月に6例発生した麻疹は、5月の3週目に1例発生した後、報告が出ていません。日本の小児では95%のワクチン接種率があり、大流行には至らずに済んでいます。

～新型コロナウイルスについて～

今年の4月下旬以降、定点機関測定数は増加していますが、ゆるやかな増加となっています。現在流行中の型は引き続きオミクロン株ですが、かなり軽症化しています(↓定点観測数のグラフ)。

～新型コロナワクチンについて～

令和6年3月31日をもって新型コロナワクチンの特例臨時接種は終了し、東京都の大規模接種開錠も終了しました。4月以降は60-64歳で重症化リスクの高い方対象とした定期接種(秋冬の年1回)に変わりました(原則有料)。

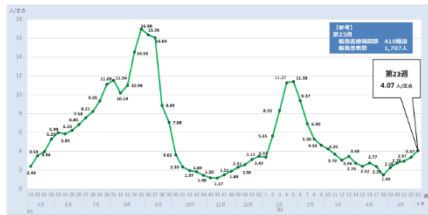


図1. 定点医療機関当たり患者報告数

～新型コロナワクチン副反応について～

2024年4月までに厚労省に発表されている副反応は、因果関係不明ですが、累計約3万7千件、そのうち重篤副反応が8988件、死亡が2193件となっています。我が国の予防接種史上最大の副反応が出ています。これらは厚労省ホームページからどなたでもご覧になれます。

2024年6月3日までに公表された新型コロナワクチンの予防接種健康被害救済制度の認定累計件数は過去最高の7,384件となりました。1977年2月からのコロナワクチン以外の予防接種健康被害認定件数の過去46年分の総数3,666件を大幅に上回りました。

予防接種健康被害救済制度とは、予防接種(定期接種、臨時接種)による健康被害が生じた場合に予防接種法に基づく救済が受けられる制度のことです。給付の種類には、①医療機関で医療を受けた場合の医療費および医療手当、②障害が残ってしまった場合の障害養育年金、③亡くなられた場合の葬祭料や死亡一時金の3つがあります。

表：5月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	208
2	胃腸炎(デノ1回3含む)	108
3	RSウイルス	13
4	新型コロナウイルス	10
5	突発性発疹	8
6	ヘルパンギーナ・手足口病	3
7	咽頭アデノウイルス	2
8	ヒトメタニューモウイルス	1
8	水ぼうそう	1
8	おたふく風邪	1



あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます。https://www.ssn-clinic.net/index.html

～あんずからのお知らせ～

★空き状況はWebでしみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★キャンセルをされる場合留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項 診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

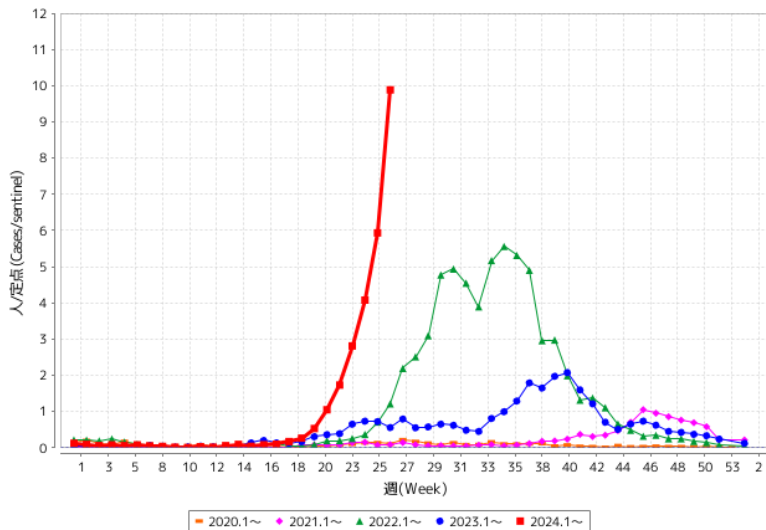
【感染症だより】

7月（文月：ふみづき）梅雨、湿気、蒸し暑さが続きます。日中暑くても夜間や明け方は冷えることがあります。エアコンは設定温度をあまり低くせずに弱冷房や切タイマーなど上手に使ってゆきましょう。

～手足口病・ヘルパンギーナについて～

手足口病が5月ごろから流行して6月上旬に警報レベルに達しました。ここ数年の東京都の報告数では最も多くなっています。手足口病はヘルパンギーナと同様、夏に流行する小児の「夏風邪の一種」であり、発熱・発疹をみとめるウイルス性感染症です。コクサッキーウイルスや、エンテロウイルスなどが原因ウイルスです。症状は、発熱、手足口にでる発疹です。直径2-3mmの水疱が、口腔粘膜や口の周り、腕から手のひら、下腹部～足の裏まで出ます。発熱して数日後に発疹が出てくることも多く、発病初期には診断がつかないことがあります。お口の中の発疹の痛みが強い場合は飲食できなくなることがあります。食べられないときでも水分補給だけは頑張ってい、脱水症を起こさないようにしましょう。ほとんどの場合は軽症ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎を起こすこともあります。咳やくしゃみ、便の中には2～4週間ウイルスが排出されますので手洗いうがいですら予防しましょう。治ってから1～2か月後に爪が割れたり剥がれたりすることがありますが（爪甲脱落症）、その後は新しい爪が生えてきます。

東京都の手足口病の流行状況（赤線が2024年）



(C)2002-2024 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

～新型コロナウイルスについて～

東京都では4月下旬からジワジワと増加傾向が続いていますが、以前のような大流行はしていません。現在はオミクロン KP.3 型が主流となっていますが、特に入院者数や重症化数は増えていません。

～麻疹について～

東京都で2月と3月に6例発生した麻疹は、5月の3週目に1例発生した後、報告が出ていません。6月30日までに新しい報告は無く、都内からの伝染は収束しているようです。

表：6月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

順位	感染症	患者数
1	溶連菌	177
2	胃腸炎(アノ1/101含む)	110
3	ヘルパンギーナ・手足口病	99
4	とびひ(伝染性膿痂疹)	20
5	咽頭アノウイルス(アノ熱)	13
6	新型コロナウイルス	11
7	RSウイルス	7
8	突発性発疹	6
9	ヒトメタニューモウイルス	2
10	おたふく風邪	1
10	水ぼうそう	1
10	リンゴ病	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます。
<https://www.ssn-clinic.net/index.html>

～あんずからのお知らせ～

- ★空き状況は Web で
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★キャンセルをされる場合
留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★ご予約の際の注意事項
診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様が同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

8月(葉月:はづき)、8月7日は立秋です。猛暑が続きますが、秋はもうすぐそばです。ススキの穂がでたり、コスモスが咲いたり、トンボが飛んだり、空の雲が高くなったりと秋の気配を感じます。

～新型コロナウイルスについて～

4月後半に第10波の底となって以降、新型コロナウイルスは再び上昇に転じ11波となりました。7月後半には12週連続増加となりました。とはいえ、現在流行中の亜型KP.3については重症化しているという報告はありません。

↓東京都の新型コロナウイルスの流行状況

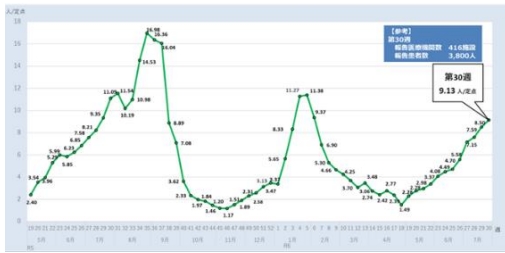


表: 7月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病 174・ヘルパンギーナ 22	196
2	溶連菌	121
3	胃腸炎(103含む)	98
4	新型コロナウイルス	25
5	とびひ(伝染性膿痂疹)	15
6	咽頭アデノウイルス(プール熱)	12
7	RSウイルス	4
8	突発性発疹	3
9	おたふく風邪	2
10	ヒトメタニューモウイルス	1
10	リンゴ病	1

～麻疹について～

令和6年に入り東京都では7月までに累計8例発生しましたが、集団発症の報告は出ていません。東京都ではMR接種率は92%以上(MRI期は97.5%)の接種率があり、感染が広がるリスクは低い状況であると言えます。

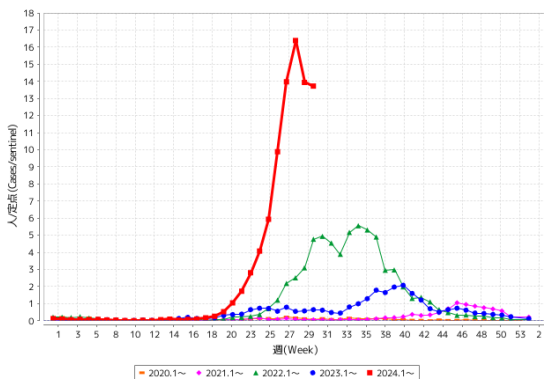
～マイコプラズマ感染症について～

東京都では7月に入ってからマイコプラズマ肺炎が増えていきます。マイコプラズマは、健康な方に飛沫や接触で感染します。潜伏期間が2～3週間と比較的長いです。発熱、だるげ、頭痛で始まり、3～5日後から乾いた咳が始まります。咳は徐々に増強し、解熱後も3～4週間続きます。解熱しても、咳が頻繁に出ていたり、夜間に咳で起きてしまったりしている時はお休みしましょう。

～手足口病について～

東京都では7月ようやくピークアウトしてきましたが、まだ例年よりも高いレベルで流行中です。手足口病を発症するウイルスは複数あるため、ひと夏に2度かかることもあります。

■東京都の手足口病の流行状況



(東京都感染症情報センター)よりどなたでもご覧いただけます。



～あんずからのお知らせ～

★空き状況は Web で
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★キャンセルをされる場合
留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項
診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様が同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。





【子どもの睡眠について】

睡眠は人間にとってとても大切です。睡眠時間が短いと、免疫が低下したり、子供では成長が妨げられたり、多動で落ち着きがなくなったり、ホルモンバランスが崩れたり、自律神経バランスが乱れたりします。

世界では、特に日本人と韓国人は睡眠時間が少ないと言われています。大人の睡眠時間が短いことは、当然子供の睡眠時間にも影響が出ます。子供はいったい何時間眠ればよいのでしょうか？右の図に示すように、低年齢であるほど睡眠時間が必要です。特に問題なのは、スマートフォンやタブレットの普及によってスクリーンタイムが増え、それと共に睡眠時間が削られることです。



■厚労省生活習慣病予防のための健康情報サイトより睡眠不足や睡眠障害、子どもへの大きな影響WEBサイトからご覧になれます

子どもの推奨睡眠時間



小学生は9時間以上寝るのが良いのね



必要な睡眠時間には個人差があります 米連邦保健部「子どもに必要な睡眠時間」より引用
*Hirshkowitz M, et al. Sleep Health. 2015; 1(1):40-43

～子どもの生活習慣について～

日々忙しい中で、子どものしつけや教育を行っていくことはとても大変なことです。

以下はふくしま子ども・女性医療支援センター教授の横山浩之先生がまとめてくれた、「小学校入学までに出来てほしいこと」を一部ご紹介します。まずは、保護者が手本になりましょう。

1. 早寝・早起き・朝ごはん

- ・早寝： 小学校低学年なら9時前には寝ましょう
- ・早起き： 起こさなくても6時には起きてくる
- ・朝ごはん： 「おなかすいた」と起きてくる

※休みの日こそ大切：休日に時間がずれると、平日学校で勉強に身がはいりません

2. しつけの3原則

- 言われなくてもできるまで、繰り返し教え続けましょう
- ① へんじ
- ② あいさつ（ありがとう、ごめんなさいも含む）
- ③ くつをそろえてぬぐ（整理整頓の第一歩）

3. お手伝い

- ① 自分から進んでお手伝いが出来る
- ② 自分のことは自分でやる習慣がついている
- ③ 家族の中で、自分の役割分担がわかる

※お手伝いは1歳半からやり始める「言ってもやらないのは危険信号」

4. メディアとの付き合い方

- ・2歳までのテレビ、ビデオ、デジタルデバイス視聴は害悪
- ・授乳中、食事中は禁止（食事を大切にしない家庭は崩壊まっしぐら）
- ・すべてのメディアへ接触する総時間は30分まで
- ・子供部屋には、デジタルデバイスを置かない
- ・自然に親しむ、土に触れる遊びを親子で楽しみましょう。

あんず通信バックパ-はクリニックホームページからご覧になれます。



☀ 夏休みのお知らせ ☀
下記の期間は閉室となります。
病児保育室あんず：8月17～25日
しみず小児科・内科クリニック：
8月18～25日休診
★8月26日から通常どおりとなります





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

9月(長月:ながつき)、9月22日は秋分の日。夜と昼の長さが等しくなるお彼岸の時期です。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、残暑が長引いています。夏バテしないよう睡眠をしっかりとって乗り切りましょう～。

【感染症だより】 ～手足口病～

今シーズン2度目の手足口病に罹っている方が増えています。東京都では7月にピークを越えてから減少に転じましたが、8月から再び増加傾向となり今シーズン2回目の流行となっています。

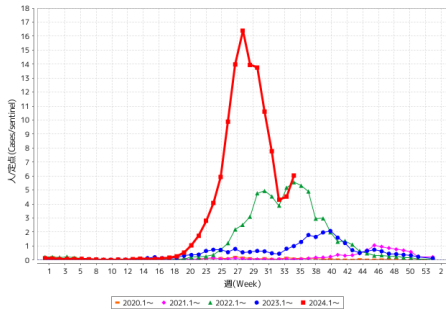


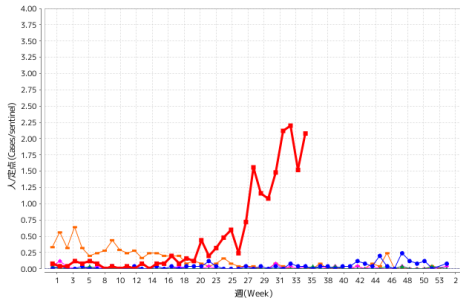
表: 8月しみず小児科・内科クリニック
で診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	71
2	胃腸炎(アノ3含む)	67
3	手足口病(52)・ヘルパンギーナ(8)	60
4	新型コロナウイルス	11
5	咽頭アデノウイルス(7・熱)	8
6	RSウイルス	5
7	突発性発疹	4
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	2
8	水ぼうそう(水痘)	2
10	おたふく風邪	1

あんず通信バックパ-はクリニックホームページからご覧になれます。

～マイコプラズマ感染症について～

東京都では過去10年間で2番目に多い報告数となっています。マイコプラズマは、健康な方に飛沫や接触で感染します。元気で肺炎になっていることがあり、「歩く肺炎」と言われます。潜伏期間が2～3週間と比較的長いです。発熱、だるけ、頭痛で始まり、3～5日後から乾いた咳が始まります。咳は徐々に増強し、解熱後も3～4週間続きます。1解熱しても、咳が頻繁に出たり、夜間に咳で起きてしまったりしている時はお休みしましょう。



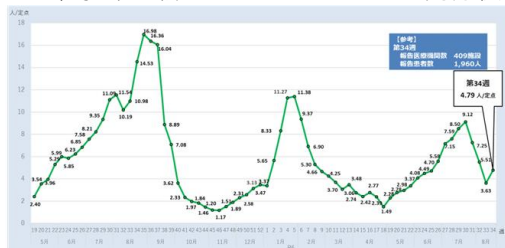
←東京都のマイコプラズマ流行状況



～新型コロナウイルスについて～

7月に第11波のピークとなって以降、新型コロナウイルスはおおむね減少傾向です。8月下旬はやや増加となりました。とはいえ、現在流行中の亜型KP.3については重症化しているという報告はありません。

↓東京都の新型コロナウイルスの流行状況



～あんずからのお知らせ～

- ★**空き状況はWebで**
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。**ご予約は必ずお電話**でお願い致します。
- ★**キャンセルをされる場合**
留守番電話で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様が同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力を宜しくお願い致します。

～インフルエンザワクチンについて～

2024-2025 シーズン接種が10月中旬から始まります。例年ですと12月から2月にかけて流行しますので、12月末までの接種をお勧めしています。生後6か月から接種可能ですが、1歳未満の接種は免疫生成が難しいことから、厚労省も推奨していません。ご希望の方は接種医とご相談ください。日本国では13歳未満の方は2回接種となっていますが、WHOでは過去に接種のある9歳以上の子どもは1回接種としています。ワクチンに含まれる卵成分はごく微量であるため、卵アレルギーの方でもほとんどの場合接種可能です。主治医に相談しましょう。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

10月(神無月:かんなづき)にもかかわらず30℃となる異例の暑さとなりました。二十四節気では10月8～23日は寒露(かんろ)と言って、夜が長くなり露が冷たく感じられる頃を指します。朝晩は冷えてきますが、空気が澄んで秋晴れの日が多くなります。

【感染症だより】

～溶連菌感染症～

溶連菌感染症は、最近ではあまり季節と関係なく流行が続いています。発熱や咽頭痛、目の充血、皮膚発疹、首りのリンパ節の腫れ、舌や唇が赤くなるなどの症状がみられます。初期症状では、嘔気や腹痛、頭痛、関節痛なども多くみられます。発熱のない軽症の方もいれば、高熱が続くこともあります。軽症重症にかかわらず、抗生物質治療による除菌が必要です。内服開始後24～48時間は出席停止です。

～手足口病～

先月に引き続き、今年2度目の手足口病が流行しています。潜伏期は3～6日ですが、保育園など集団生活の場では飛沫・接触により一度に複数の子供が感染します。ほとんどの子供は発熱や発疹(水疱)が出て元気に経過して自然治癒しますが、稀に脳炎や脳症を起こすことがあります。ウイルスの型によっては、感染後数週間～数か月後に爪が割れたり剥がれたりすることがあります。爪は剥がれても、後から自然に新しい爪が生えてくるのであまり心配ありません。出血したり、化膿したりする場合には皮膚科を受診しましょう。

～感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)～

秋から冬にかけてウイルス性胃腸炎の季節です。一般には「おなかの風邪」、「Stomach flu」と言ったりします。食欲低下、嘔気、下痢、腹痛、発熱などがみられます。接触、飛沫によって簡単に感染します。原因ウイルスはノロウイルス、アデノウイルス、ロタウイルス以外にも何十種類もあります。子供は症状が下痢だけの場合、水分補給が出来ていれば一見元気そうです。しかし、頻回の下痢によって脱水症状や、腹痛や嘔吐が起こる可能性があり、自宅療養が必要です。特に乳児では脱水症状を起こしやすいので、十分な水分補給、消化の良いものを与えましょう。嘔気、嘔吐のために水分摂取が困難で、顔色不良やぐったりしている場合には点滴治療が必要となる場合があります。年長児では3～4日で回復しますが、乳児では数週間続くことが多いです。長引く場合には医療機関に相談しましょう。

～インフルエンザワクチンについて第二報～

2～19歳を対象とした経鼻弱毒生インフルエンザワクチンが2023年3月に薬事承認されました。鼻の中に直接吹き付ける1回投与(両鼻腔に0.1mlずつ1回投与)のワクチンなので、従来の注射と違って痛みが無いのがメリットです。また、気道分泌型のIgA抗体が誘導されるために予防効果が高いと考えられています。一方、過去にインフルエンザに罹患した方には効果が無いとされています。2歳未満に接種出来ないのは、海外の臨床試験で2歳未満の入院および喘鳴のリスクが増大したためです。

添付文書では、有効率は28.8%と記載されています。また、このワクチンの選定株はWHOが選定した株種3種であり、日本国内の予測株とは異なっています。弱毒とはいえ、生ワクチンであるため、妊婦や免疫不全や免疫の低下した方には使用できません。

ご希望の方は医療機関に接種可能かどうか確認が必要です。

表:9月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病	127
2	溶連菌	96
3	胃腸炎(アデノ3ノロ2含む)	70
4	新型コロナウイルス	9
5	咽頭アデノウイルス(7-ル熱)	8
6	とびひ(伝染性膿痂疹)	7
7	水ぼうそう(水痘)	1

★マイコプラズマ感染症とみられる症状の患者さんも多く受診されていますが、迅速検査を行っていないために記載していません。



あんず通信は、クリニックホームページからご覧になれます。

～あんずからのお知らせ～

★空き状況はWebで

しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★キャンセルをされる場合

留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項

診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力を宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年10月よりファイザー社製の小児肺炎球菌ワクチンが13価のものから20価の製品に変わりました。いずれも同じ肺炎球菌に対するワクチンですが、より広い範囲の型に対応します。9月までにMSD社の15価のもので開始した方は原則としてそのまま15価で継続するよう定められています。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

11月(霜月)二十四節気の11月7日は立冬です。立冬のちょうどその日、ニュースでは「木枯し1号」、富士山の初冠雪(統計開始以来最も遅い初冠雪)が報じられました。つい先月まで夏のようなのに…。11月23日には秋の収穫をお祝い・感謝する新嘗祭(にいなめさい)が宮中や全国の神社で行われます。

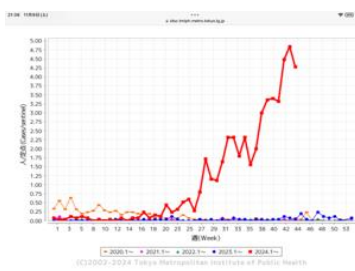
【感染症だより】

～インフルエンザについて～

11月8日厚生労働省はインフルエンザが全国的な流行期に入ったと発表しました。市内でも11月に入って陽性者が出てきました。現在流行している型は、10月までの報告ではAH1pdm09が最多で次がAH3亜型となっています。都道府県別に見ますと、沖縄県が最も多くなりました。新型コロナウイルスの流行が下火になっており、入れ替わった形で出て来ました。例年の本格的流行は1～2月です。重症化が心配な方は年内にインフルエンザワクチンを接種すると良いでしょう。

～マイコプラズマについて～

この秋コロナやインフルエンザよりも流行しているのがマイコプラズマです。感染報告数は過去10年の中でも多い年となっています。マイコプラズマは学童から成人の比較的体力のある方に流行します。潜伏期は2～3週間で、流行は飛沫感染で広がります。咳やくしゃみ、発熱など風邪と区別がつきにくいですが、乾いた咳が長引きやすいのが特徴です。肺炎に至る場合もありますが、ほとんどの場合は軽症です。マイコプラズマ肺炎は、急性期は出席停止となりますが、明確な出席停止期間は定められておらず、症状が軽快すれば登校可能となります。マイコプラズマの熱は長引くことがあります。



熱が出たら、**熱型表**をつけることをお勧めします。数日間熱が続いても、1日1日だんだんと、熱のピークが40.0℃から、翌日に39.5℃、翌々日に39.0℃、その次の日に38.5℃、そのまた次の日に38.0℃といった形で少しずつ下がって来ている場合には、治る傾向であると予測できます。

～りんご病(伝染性紅斑)について～

今年は久しぶりにりんご病が出ています。りんご病はヒトパルボウイルス B19 というウイルスによって感染します。両側のほっぺたが赤くなるのが特徴的です。レース状に淡く赤く出る発疹はほっぺただけで無く、腕や大腿(太もも)、胴体にも出る事があります。発疹が出る1週間～10日前ごろに微熱や風邪症状が見られ、その頃にウイルスが伝染します。発疹が出る頃には伝染力は無く、特に治療はありません。妊娠初期に感染した場合、胎児水腫や流産が生じることがあり、妊婦さんは注意が必要です。

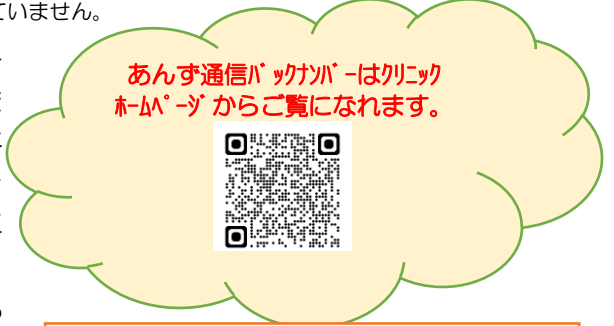
～感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)～

寒くなってくる11月、胃腸炎の季節です。食欲不振、嘔気、下痢などお腹の症状が出ます。特に感染しやすいのは、まだ一度も罹ったことの無い乳児です。下痢だけのこともあれば、嘔吐・下痢両方のこともあります。乳児が罹ると、お腹の腸が未熟なために長引くことが多く、数週間下痢が続いてしまうこともあります。全身状態は良くても、下痢が1日に2回以上出してしまう場合や、水様便の場合はお休みしましょう。下痢が長引いてしまう場合には、一過性乳糖不耐症になってしまっていることがあります。一時的に普通ミルクから乳糖の入っていないミルクに替えてあげると良いでしょう。お腹の丈夫な子は、少し食欲が落ちたくらいで済んだり、形のある白いウンチが出るだけで済むこともあります。

表：10月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病(ヘルパンギーナ6含む)	180
2	溶連菌	117
3	胃腸炎(アデノ3ノロ2含む)	75
4	とびひ(伝染性膿痂疹)	10
5	咽頭炎(ウイルス7熱)	4
5	新型コロナウイルス	4
5	RSウイルス	4
8	インフルエンザA	1
8	突発性発疹	1
8	りんご病(伝染性紅斑)	1

★マイコプラズマ感染症とみられる症状の患者さんも多く受診されていますが、迅速検査を行っていないために記載していません。



～あんずからのお知らせ～

- ★**空き状況**は Web で **しみず小児科・内科クリニック**のホームページから確認出来ます。**ご予約は必ずお電話**でお願い致します。
- ★**キャンセルをされる場合** **留守番電話**で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力を宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年10月よりファイザー社製の小児肺炎球菌ワクチンが13価のものから20価の製品に変わりました。いずれも同じ肺炎球菌に対するワクチンですが、より広い範囲の型に対応します。9月までにMSD社の15価のもので開始した方は原則としてそのまま15価で継続するよう定められています。





～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

12月師走(しわす)

12月21日は冬至です。1年で最も昼の時間が短くなります。冬至を過ぎると少しずつ昼時間が伸びていき、春がやってきます。

【感染症だより】

今年大流行した手足口病はようやく下火になりました。溶連菌は1年を通じてダラダラと流行を続けています。12月、寒くなって来たたん毎年冬恒例の感染性胃腸炎が増えています。

～感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)について～

毎年12月と1月は胃腸炎の報告が最も多くなります。今年も増えてきました。潜伏期は1～2日で、一人患者さんが出るとあっという間に家族や同室の子ども達に広がります。予防のポイントですが、原因ウイルスはアルコール消毒の効果が乏しく、手洗いが大切です。オムツ交換の時はなるべく手袋を使い、排便後や吐物処理後はその都度、石鹸と流水で手を洗いましょう。消毒には、次亜塩素酸ナトリウム(塩素系の漂白剤)が有効です。

～中耳炎について～

中耳炎は色々な風邪などに伴って起こります。中耳炎(ちゅうじえん)はよく聞かれると思いますが、いったい耳のどこの炎症でしょうか？耳の奥の方は専用の器具が無ければ、どんなに頑張っても見えません。耳の入り口から鼓膜(こまく)までの部分を外耳(がいじ)と言います。外耳の距離は大人で2.5～3cmで、子供ではもっと短いです。鼓膜の奥側が中耳という場所で、鼓膜でとらえた音の振動を内耳に伝える機能をする場所です。中耳は耳管というトンネルで鼻の奥とつながっています。鼻が詰まって鼻の奥に炎症が起こると、耳管を經由して中耳にウイルスや細菌が侵入して炎症を起こします。中耳の炎症によって白血球が増え、鼓膜が腫れます。鼻詰まりの風邪や黄色い鼻水が続いている時、夜、子供が風邪で熱が出た時に耳を触って泣いたり、痛そうに不機嫌している時は、中耳炎かもしれません。炎症が強いと、鼓膜が破れて耳漏(じろう=耳だれ)が出てくることもあります。夜間に痛みや熱が出る事が多いですが、痛がっていたら、カロナールやタイレノールなど解熱鎮痛剤で応急処置ができます。夜間はいったんそれでしので、翌朝、耳鼻科を受診されると良いでしょう。

～インフルエンザについて～

12月、インフルエンザが先月よりも増えて来ました。体調不良続きでインフルエンザワクチンが出来ず、先にかかってしまった方もいらっしゃると思います。インフルエンザの流行ピークは例年1月下旬～2月ですが、1度罹ってしまっても、冬シーズン中に別の型にかかるかもしれません、気をつけましょう。型は1シーズン中に変異して、A型に2度罹ったり、A型の後にB型に罹ってしまう事もあります。多い人では、1シーズンに合計3回罹ってしまうことがあります。1-2月の流行までに(出来れば12月中旬に)1回でもワクチンを接種出来れば、重症化予防効果に貢献できます。しかし、もしワクチンが間に合わなくても、発熱から48時間以内にインフルエンザ薬を内服すれば、重症化を防ぐ効果があります。とはいえ、インフルエンザに罹らないのが一番です。バランス良い食事、睡眠をしっかりととり、ウイルスに負けない身体を保ちましょう。

表：11月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	125
2	インフルエンザA	72
3	手足口病(ヘルパンギーナ1含む)	70
4	胃腸炎(ノロ1含む)	65
5	とびひ(伝染性膿痂疹)	11
6	突発性発疹	6
7	RSウイルス	5
7	咽頭アデノウイルス(ブー-ル熱)	5
7	新型コロナウイルス	5
7	水痘(みずぼうそう)	5
11	リンゴ病(伝染性紅斑)	4
12	ヒトメタニューモウイルス	1

★マイコプラズマ感染症とみられる症状の患者さんも多く受診されていますが、迅速検査を行っていないために記載していません。



あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます

～あんずからのお知らせ～

★空き状況はWebで

しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★キャンセルをされる場合

留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項

診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力を宜しくお願い致します。

あんず年末年始お休みのお知らせ

12月28日から1月5日まで年末年始のお休みを頂きます。6日から通常ご利用になれます。

しみず小児科・内科クリニックのお休みは12月29日から1月8日までです。9日から通常診療再開致します。ご不便をおかけしますがよろしくお願い致します。

